

メキシコ 2025年のブルーベリーの生産量は9%減少

[FreshFruitPortal](#) 2025年2月14日

メキシコはブルーベリーの主要生産国の1つであり、世界第6位にランクされている。2025暦年の年末までの生産量は7万3,500トンと予測されており、2024年から9%の減少となる。

米国農務省(USDA)のブルーベリーに関する最新の報告書では、輸出量は7万トンで、2万トンを輸入することが示されている。

生産量の減少にもかかわらず、メキシコの生産者は、より良い農法と新しい栽培技術に取り組み、高度な生産技術を適用して新しい品種を栽培し、この果実の利点を活用して消費を増やしている。

国内のブルーベリー消費量 メキシコの年間一人当たりのブルーベリー消費量は、米国をはじめとする世界の主要な果実消費国を大きく下回っているが、人々がブルーベリーの健康効果を次第に意識するようになったため、2023年から2024年の間にブルーベリーへの関心は倍増した。

2023年には一人当たり70gだった消費量が、2024年には146g(前年比+109%)に跳ね上がり、この果実の利点を強調して消費量を増やそうとする生産者の取組みを反映している。

報告書によると、ブルーベリーはほとんどの人々の間で高級食材と見なされており、国内市場では比較的高い値段が付けられている。ブルーベリーの大半は、ゼリー、ジャム、生鮮、スムージーで消費される。

生産と貿易 報告書によると、メキシコのブルーベリー部門は、良好な栽培条件、容易に利用できる労働力、主要輸出市場である米国への近さ、及びヨーロッパ、アジア、中東の一部の国への市場アクセスの恩恵を受けている。

生産者は、高度な生産技術、新品種及び新しい栽培技術を適用して、干ばつ等の天候上の課題に対処し、果実の品質と風味を向上させている。

同等の品質のベリーを低価格で提供するペルーとチリからの競争圧力に対応するため、メキシコの生産者は、従来10月だった収穫と出荷の開始を、南米の収穫が減速する2月まで戦略的に遅らせた。

収穫の開始を遅らせて収穫期間全体を短縮することで、生産者は人件費を削減し、競合国の出荷量が少ない時期にブルーベリーを輸出し、全体の出荷量の減少を2月から5月までの収益の増加で補うことを目指している。

生産者が改良されたより多収性の品種にシフトするため、2025年の栽培面積は若干減少すると予想される。ハリスコ州とシナロア州が、引き続き主要な生産州になると予想される。シナロア州では、水への適切なアクセス等の良好な生産条件のおかげで、生産量の増加が予想されると報告書は述べている。

輸出入 輸出量は7万トンで、前年の7万4千トンをわずかに下回る。米国が、メキシコのブルーベリー輸出の96%を占めている。

メキシコは近年、欧州連合(EU)のほかアラブ首長国連邦などの新興市場にチャンスを見出し、輸出を新たな地平線に拡大している。

米国は引き続き、メキシコのブルーベリーの主要な輸出市場であるとともに供給国でもあると予想される。

輸入量は2024年より7%多い2万トンと予測されており、これはメキシコが生産量が少ない時期に米国、ペルー、カナダが国内需要の増加の一部を補うためである。

米国は引き続きメキシコへの主要なブルーベリー供給国であるが、ペルーもメキシコへのブルーベリー輸出を増やし始めている。